

長橋殿之南の方の御みすを巻あげ被申候時御参也、然に禁裏様御座所之御障子を内より長橋殿あけられ候時、御縁と御座敷との際のかべ邊にて、御檜扇を持たれながら、ふかく御禮を御申也、其時長橋殿請じ被申候て、御庇より御簾臺へ御参也、御ひさしに御茶湯在之、御茶湯棚のわきより御参入也、仍三獻參、三獻ながら御盃御頂戴之、これ正月にかぎる御儀也云々、臨時の御参内時は、必二獻めをば、大上龍被給之也、三獻めに御酌を御沙汰也、又天酌にて天盃御頂戴之、又御酌御沙汰候て、女中衆より公家まで御れんだいにて御とをり在之、三獻めの御盃禁裏様きこしめさる、とき、御平鞘を傳奏持參候て、御進上のよしを禁裏様へ被申入候て、禁裏様御座候御右の御た、みの上に置被申候也、次三獻以後、御肴あけ被申候て後御退出也、如本御ゑんへおりて口御ゑんぎはのさいのへんにて御禮御申候て、其儘長橋殿御退出候て、如元御直垂、御立鳥帽子をめされて後、長橋殿被參、又三獻參、御盃三ツながらはじめる、初獻の御盃長橋殿被給之、二獻めのをば公家衆の中いちの上首被給之云々、三獻の御酌長橋殿持參候て、きこしめされ候て、御盃長橋殿被給之、御酌也、公家衆迄御酌にて御とぶり在之、如此事すみて、長橋殿御かけへ被退て御退出也、御みす傳奏あげ被申候○中略、一五百疋定て長橋殿へ參也、一獻料と號、長橋殿へ伊勢守持參、一御供之事、御供衆三騎又は五騎七騎、同御供の同朋一騎、御小者六人、走衆六人めしつれらる、一御警固は大名勤被申候、近年は大略右京大夫勤仕せらる、のみ也、一御出奉行とて、右筆方の内兩人御さきへ伺候仕て、庭上に敷皮を乞き著座仕也、一御直廬の役と號て、同朋一人長橋殿に伺候仕て、御装束以下取あつかひ申也、長橋殿赤きへりの掛席の外にて三獻在之云々、一御冠御装束御著用の役者は藤宰相殿、御前装束の役も公家衆也、又藤宰相殿父子御参之時は、御息は御前装束を役せらる、也云々、一禁裏様御配膳は上龍被勤申之、御相伴の配膳は佐殿也、又長橋殿と申は内侍のかしら也云々、御ひさげは内侍の役なり、長橋殿にての